



中世の街並みと田園風景のハーモニー 色彩あふれるフランダース地方

ベルギー北部を占めるフランダース地方は、スヘルデ川流域に広がる大平原地帯からなり、緑豊かな田園地帯。西フランダース、東フランダース、アントワープ、フレイミッシュ・ブラバント、リンブルクの5つの州からなるオランダ語圏で、中世の面影を残す美しい街並みが観光のハイライトです。港町アントワープをはじめ、水の都ブルージュ、神聖ローマ皇帝カール5世の生誕地ゲントなど、かつて栄華を極めた古都が、往時の歴史や文化を色濃く残しながら点在しています。ブルージュの歴史地区や、アントワープにあるフランタン・モレトゥス印刷博物館、各地に点在するベギン会院など、世界遺産に登録されている建造物も多数残されています。また、中世の伝統を今に伝えるレースやタペストリーなどの手工芸品や、北海の新鮮な海の幸を使ったシーフードなど、フランドル地方ならではのショッピングやグルメの魅力も見逃せません。

ブルージュ

運河に囲まれた古都



ブルージュの別名は“屋根のない博物館”。運河に沿って、昔の面影を残す石造りの建物が軒を連ね、**旧市街区域はそのまます世界遺産に登録されています。**そんな街を歩けば、まるでタイムスリップしたような気分。鐘楼や西フランドル州庁舎など歴史的建造物に囲まれたマルクト広場は市の中心にあり、コンパクトにまとまった町並みは、ぜひ徒歩で歩いてめぐりましょう。フランドル最古の市庁舎や聖血礼拝堂など、美しいゴシック様式の建造物やメムリンク美術館、ポピンレースのコレクションが見られるレースセンターなどみどころは盛りだくさんです。散策の合間に運河を巡る遊覧ボートに乗ってみるのも一興です。

▶ [主なみどころ](#) ▶ [美術館、博物館](#) ▶ [ブルージュ観光局](#)

アントワープ

ファッションブルな町



ベルギー第2の都市で世界最大級の港町アントワープ。15世紀後半にはフランドル地方の毛織物交易の中心地となり、16世紀には繁栄の頂点を極めました。そんな歴史を物語る壮麗な市庁舎やギルドハウスなどのルネサンス様式の建造物は、往時の栄華の様子を今に伝えています。現在では、ダイヤモンド取引の中心地および**モダンなファッションの発信地**としても有名で、お洒落なショップやカフェ巡りの楽しみも尽きません。バロック時代最大の画家ルーベンスの足跡も街のあちこちに残されており、小説「フランダースの犬」の舞台となったノートルダム大聖堂には、貴重な作品が展示されています。アントワープのランドマークの一つともなっているネオバロック様式の壮麗な中央駅も必見です。

▶ [主なみどころ](#) ▶ [美術館、博物館](#) ▶ [アントワープ観光局](#)

ゲント

中世と現代が出会う街



レイエ川とスヘルデ川の合流地点に広がる街で、園芸が盛んなことから別名“花の都”とも称されます。16世紀にはパリに次ぐ大都市として栄え、北方ルネサンス芸術が花開きました。近年は工業都市として発展し、ベルギー第3の都市でもあります。旧市街の中心に架かるシント・ミール橋からは、13世紀に建てられた鐘楼をはじめ、聖パーフ大聖堂、聖ニコラス教会など、ゲントを象徴する風景が一望できます。フランドル芸術の最高傑作と言われる、聖パーフ大聖堂のファン・アイクの祭壇画「神秘の子羊」は見逃せません。日曜日には屋外の広場で花市や蚤の市も開催されます。夜間にはライトアップされ、運河に浮かび上がる幻想的な街並みが楽しめます。

▶ [主なみどころ、美術館、博物館](#) ▶ [ゲント観光局](#)

ルーヴェン

学生が集う活気あふれる街



ルーヴェン伯がデル川の中州に築いた居城から発展した町で、かつてブリュッセルと州都を争ったこともある歴史ある街。ベルギー最大の大ベギン会院や後期ゴシック様式でヨーロッパ屈指といわれる壮麗な市庁舎など、興味深い歴史的建造物も数多く残されています。ベルギー最古の総合大学がある学園都市としての顔を持ち、市内には200以上の大学関係の施設があり、学生が集う活気あふれる雰囲気特徴的です。ビール産業もこの街の名物の一つで、ベルギー最大のビール会社ステラ・アルトワの本社工場や個人経営の醸造所を見学することもできます。

▶ [主なみどころ](#) ▶ [ルーヴェン観光局](#)

メッヘレン

カリヨンの音色が町に響く

デル川沿いに発展した町で、首都ブリュッセルの郊外に位置しています。16世紀初めにオーストリアのマルガレータ王妃がこの町をネーデルランドの首都に定めたことから、華やかな時代を迎えました。王妃没後に首都はブリュッセルに移

ブリュッセル

ヨーロッパ屈指の芸術の都

古都の香り漂うベルギーの首都ブリュッセルは、ヨーロッパ連合や北大西洋条約機構の本部が置かれ、ヨーロッパの中心都市としての顔も併せ持っています。観光のハイライトとなっているのが、旧市街の中心にあるグランプラス広場。市庁舎



されましたが、文化的遺産や伝統はそのまま継承され、今では芸術的なタペストリーや家具の産地として有名です。中世の街並みをそのまま残す市街には、ゴシック様式の聖ロンバウツ大聖堂や聖ヨハネ教会、旧繊維取引所からなる市庁舎などの建造物が残されています。カリヨンの美しい音色もこの町の自慢の一つで、聖ロンバウツ大聖堂には大規模なカリヨンが2組あり、定期的にコンサートも上演されます。

▶ [主なみどころ](#) ▶ [メッヘレン観光局](#)



や王の家、ゴシックやバロック様式のギルドハウスに囲まれた“世界で最も美しい広場”と称され、世界遺産にも登録されています。ベルギーを代表する画家の傑作が展示された王立美術館、アールヌーヴォー建築の巨匠オルタの住居からなるオルタ美術館など、芸術観賞の楽しみも豊富です。グルメの都としても知られ、ミシュランの星に輝く一流レストランから、チョコレートショップ、カフェまで、食べ歩きの楽しみも尽きません。

▶ [主なみどころ](#) ▶ [美術館、博物館](#) ▶ [ブリュッセル観光局](#)

その他の都市

オステンド



北海有数のリゾート地

18世紀にはベルギー最大の貿易港として栄えた港町で、現代では北海沿岸有数のリゾート地となっています。海岸沿いのブロムナードには町のランドマークともいえるカジノや、デラックスホテルが軒を連ね、別名“リゾートの女王”と呼ばれるほどです。夏季にはオペラやコンサートが上演され、ひととき賑やかです。画家ジェームス・アンソールが愛した町としても知られ、アンソールの絵画を展示した生家とアトリエを見学することもできます。

シント・マルテンス・ラーテム



洒落た家並みが続く田園地帯

アントワープ郊外にある小さな村で、瀟洒な家が立ち並ぶ高級住宅街として有名です。かつては湿地帯が広がる土地でしたが、その後緑豊かな田園地帯に生まれ変わりました。20世紀初頭には、美しい風景に魅せられて多くの芸術家がこの地を訪れたことから、人の往来も増え、住宅街が形作られるようになりました。絵になる家々を巡りながらのんびりと散歩を楽しむのも一興です。アントワープからは遊覧船を使って気軽に訪問することができます。

シント・イデズバルド



画家が愛したリゾートタウン

北海沿岸にたずむ小さな町で、ファミリー向けのビーチリゾートとして人気が高く、可愛い別荘が点在しています。毎年復活祭の週末には花市が開催されるほか、住民は競って家を花々で飾り、美しい街並みを維持しています。シュルレアリストの画家として知られるポール・デルヴォーが愛してやまなかった町で、住宅街の一画には、デルヴォーの作品を展示したポール・デルヴォー美術館があり、観光のハイライトとなっています。

ヴールヌ



©Toerisme VlaanderenD. De Kievith

中世の伝統が残る町

海岸線から6キロほど内陸に入った場所に位置する歴史ある町で、フランス国境からも至近距離にあります。町の中心には、かつて裁判所の建物として使われた市庁舎や初期ゴシック様式の聖ヴァルブルガ教会など、歴史的な建造物が残されており、中世の華やかな町の様子を偲ばせます。この町で行われるキリストの生涯を再現した「懺悔者の行列」は、1644年に起源を持つ宗教的な伝統行事として有名で、毎年7月の最終日曜日に開催されます。

ダム



©Toerisme Vlaanderen
2002/Nieuwenhoff

牧歌的な風景が広がる

中世にはブルージュの外港として栄えた町で、15世紀以降衰退しますが、ゴシック様式の市庁舎や聖母教会、聖ヨハネ施療院など、繁栄の頂点を極めた往時を偲ばせる建造物が残されています。運河に沿ってポプラ並木が続く牧歌的な風景が広がっており、聖母教会の塔に上ればフランドルの大平原を一望することができます。ブルージュからは北東へ7キロ程度の距離なので、サイクリングや遊覧

リール



中世の面影を色濃く残す

アントワープの郊外にある、時代がさかのぼったような中世の面影を色濃く残す静かな町です。運河と溶け合った美しい街並みは数多くの画家に愛されてきた歴史を持っています。水路に沿って広がる小さな町には、美しいステンドグラスで有名なゴシック様式の聖グマルス教会をはじめ、ベギン会院など歴史的建造物があります。また、リール生まれの時計造り職人ルイス・ジンメルが建てたジンメルの塔は、観光のハイライトとなっています。

トングレン



ローマの遺跡が残る町

ローマ人によって建設された、2000年以上の歴史を誇るベルギー最古の町の一つです。町の中心のマルクト広場には、ローマ帝国軍と戦った英雄アンビオリクスの像があり、町のシンボルとなっています。今でも町の周囲にはローマの壁が残されているほか、トングレン一帯の歴史を紹介したガロ・ロマン博物館は最大規模の考古学博物館として有名です。ゴシック様式の聖母教会堂やベギン会院、マーチングゲートなど歴史的な建造物があります。

リームスト



古城でワインを味わえる

かつてローマ軍がトングレンとマーストリヒトを結ぶルートとして築いたローマ街道沿いに位置する町で、最近では、ベルギー唯一のワインの城館ワインカステールがあることで知られています。ワインカステールの正式名称はヘヌルス・エルデレン城で、その歴史は13世紀にまで遡ります。お城の周囲には15ヘクタールの広大なぶどう畑が広がり、のどかな風景を一望できるほか、見学ツアーではワイン・テイスティングも楽しめます。

船で気軽に日帰り旅行を楽しむにも最適です。



日本からのアクセス

日本からフランダース地方を訪れるための玄関口は、ベルギーの首都ブリュッセル。ブリュッセルからフランドル地方へは鉄道やバスが運行されており、アントワープまではベルギー国鉄で40分、ブルージュヘは約1時間、ゲントへは40分の距離です。この他、パリやアムステルダムなど周辺国の都市から鉄道でフランドル地方へ直接アクセスすることも可能です。

空路～ヨーロッパ各都市から乗り継いでブリュッセルへ

各航空会社が頻繁に乗り入れています。パリ、ロンドン、アムステルダムその他 およそ1時間で着きます。尚、エール・フランス利用の場合、パリのシャルル・ド・ゴール空港からブリュッセルまではタリスを利用することになります。料金は航空運賃に含まれ、列車の予約も飛行機予約時にできます。(1等・禁煙車)

鉄道～タリス号/ユーロスターでブリュッセルへ

パリ-ブリュッセル・・・平日は1日27往復、所要時間1時間25分。

アムステルダム-ブリュッセル・・・ICが1時間おき、所要時間約2時間50分。タリス号が1日6往復、所要時間2時間30分。

ロンドン-ブリュッセル・・・現在平日9往復、日曜7往復。ロンドンのウォータールー駅/ブリュッセル南駅まで所要2時間15分(ノンストップの場合)。

船～イギリスからゼーブルッヘ(Zeebrugge)へ。

ハル(英国)から P&O社のフェリーがハル～ゼーブルッヘ間を1日1往復。往復とも船中泊。(＊現在オステンド～ラムズゲート間運行のカーフェリーは車の運転者と同乗者のみが利用対象となっています)



花と水辺 ▶



ライフスタイル ▶



カルチャー ▶



アート ▶



歴史 ▶

フランダース地方の概要

旅行会社の方へ ▶

印刷用PDF ▶

[このページのトップへ](#)